

災害時の緊急対応や災害 復旧での安全

豪雨の中での作業にはどんな危険があるか

こんな危険が考えられます。

- 作業場所に到着するまでの道が荒れ、到着までに事故にあう
- 作業時に自分たちが災害に巻き込まれる
- 資機材が故障する、電気製品が漏電する。

(演習) 豪雨等の災害時に緊急対応では、どんな危険があるか話し合みましょう。
過去に経験があれば、経験談を話し合みましょう。

緊急対応時の安全確保

- 事前の打ち合わせを必ず行う。
- 連絡体制を確認する。
- 装備を確認してから、作業場所に向かう。
- 作業場所に到着したら、着手前に周辺を確認、危険箇所を把握し、共有する。
- 自分たちに危険が迫った時の退避基準や避難場所等の確認を行う。

災害復旧作業では、どのような危険があるか

こんな危険が考えられます。

- 作業場所が荒れているので、怪我のリスクが高い。
- 救助や片付け等の作業と混在して行い、第三者災害を招きやすい。
- トラック等が多く行き交うため、交通事故が起こりやすい。
- 乾燥した土砂によるほこりを大量に吸い込む。
- 不衛生のため、傷口から感染する。

(演習) 災害復旧作業では、どんな危険があるか話し合みましょう。

緊急対応時の安全確保

- 可能な限り、事前調査を行う。
- 事前の打ち合わせを必ず行う。
- 連絡体制を確認する。
- 作業場所の周辺を確認、危険箇所を把握し、共有する。
- 重機作業では、第三者が接近しないよう監視人の配置などを行う。
- 救助作業の妨げにならないようにする。
- 警察等の指示に従う。
- ダンプや作業では、歩行者を優先する。
- 衛生管理を徹底する。特に怪我をし、傷に泥が入ると破傷風になる。

平時の備え

- 豪雨などが予想される場合の対応
待機体制、重機や土のう、水中ポンプ、発電機、照明等の準備
- 連絡体制の確認（安否の確認、出動可能かどうか）
- 責任の明確化